

美和西小学校便り

令和5年度

2月号

心の中の「おに」も追い出そう

さる1月26日(金)5・6年生のスキー教室を実施しました。3年ぶりとなる体育的行事で、6年生もスキー教室は初体験。スキー連盟の指導員の方が、「今季最高のゲレンデコンディションですね。」と笑顔で言われたとおり、転んでも痛くないふかふかの雪に恵まれました。最初は、ほとんどの児童が初心者コース。スキーの先生の教えをよく聞いて、めきめき上達。午後にはたくさんの児童がリフトを使って上から上手に滑り降りていました。その上達の早さにはたいへん驚きました。雪にも恵まれましたが、指導して下さったスキー連盟の皆さんの懇切丁寧なアドバイスのおかげで、児童にウィンタースポーツの楽しさ、そして自然とふれあうことの素晴らしさを少しでも体感させることができたのではないかと大変嬉しく思います。ご指導いただいたスキー連盟の方々に感謝いたします。また、スキー教室の参加にあたっては、保護者の皆様、ご理解とご協力ありがとうございました。



さて、もうすぐ節分です。節分とは「鬼を追い払って新年を迎える、立春の前日の行事」のことです。古来より鬼は、災害や病、飢饉など恐ろしい出来事を引き起こすと考えられてきました。そうした鬼が近づいてこないように、豆を投げつけるという風習が始まりだそうです。

豆を投げるのは「魔物の目をめがけて豆を投げれば、魔を滅ぼすことができる」ということから「魔目(まめ)＝豆(まめ)」となったとか・・・。(諸説あります)鬼を近づけないことが、生活の安定や幸せにつながると考えられていたようです。では、こうした鬼や魔物はどこに潜んでいるのでしょうか。山、海、まち、湖、いろいろな所に潜んでいるのかもしれませんが、しかし、心の中にも潜んでいるようにも思います。私も「嫌だな」「やりたくないな」と思うことから「逃げよう」「やめよう」と思うことがあります。そうした気持ちは、自分の心の中に潜む魔物に心が負けそうになった時に出てくるものなのかも知れません。一部地域では、落花生を投げるところもあるそうですが、2月3日には、心の中の鬼を追い払い、負けずくじけず目標に向かって一緒に歩いていきましょう。

【今月の主な予定】

- 2月 7日(水) 美和小学校新校歌歌唱指導(10:30) 作曲者の末廣健児さん来校
- 2月 9日(金) スクールカウンセラーによるグローイングハートプロジェクト
- 2月13日(火) 一日入学(13:45)
- 2月16日(金) 参観日・学級懇談会(PTA役員選出) 児童下校14:50予定
- 2月22日(木) 校区一周ウォーク

お世話になっている人に尋ねてみよう！



1月半ばに、生活科の学習の一環として、2年生がお世話になっている人へのインタビューを行いました。

町内のスーパーの店長さんへの電話インタビュー(左上写真)では、「お店の奥の方は、どうなっているんですか?」、「何人ぐらいの人が働いているんですか?」など、普段なかなか聞けない疑問について尋ねていました。学校支援ボランティアのTさんへのインタビュー(右写真)、読み聞かせボランティアの皆さんへのインタビュー(左写真)では、「どうして始めようと思ったんですか?」「どんなことを心がけているんですか?」などの質問をして、皆さんがどんな気持ちで自分達のために活動をして下さっているのかを知ることができました。



地震・火災から身を守るために

1月23日(火)に、地震・火災を想定した避難訓練を行いました。

当日は、岩国地区消防組合中央消防署玖北第2出張所から4名の署員の方が指導のためにお越しくださいました。地震の効果音を合図に、机の下に身を隠して頭を守る姿勢をとる、地震による火災発生を受けて、速やかに避難する演習を行った後、訓練用の消火器を使って消火訓練を行いました。(上写真)



訓練では、3段階に分けた消火器の使用法を学んだ後、代表の教職員や児童による演習を行いました。大きな声で「火事だ!」と叫んで周囲の人に知らせ、火元を狙って消火する手順をみんなで学ぶことができました。

実際の災害は起こってほしくありませんが、いざというときに自分と周囲の人の命を守ることができるよう、災害発生時の対応について、ご家庭でも話題にしていただけますと幸いです。

大谷選手の「思い」を受けて

今話題の、「メジャーリーガー大谷翔平選手からの寄贈によるグローブ」が本校にも届きました。子どもたちは大喜び。誰もが、「最初に使いたい!」と思っています。

そこで、1月31日(水)の集団下校の際に、希望者を対象とした抽選により、最初にグローブをはめられる児童を選びました。



抽選の結果、選ばれたのは、2年生のTさん、3年生のYさん、そして、5年生のTさんの3名でした。(左写真)

今回、大谷選手からは、キャッチボールができるようにと、右利き用のグローブが2つ、それに、左利き用のグローブ1つが寄贈されました。大きさも子どもの手に合うように、小さなサイズとなっています。

世界の一流選手の、きめ細やかな心遣いに触れ、子どもたちも人への思いやりを忘れず、大きな夢を追い続ける人へと成長してほしいと願っ

ています。